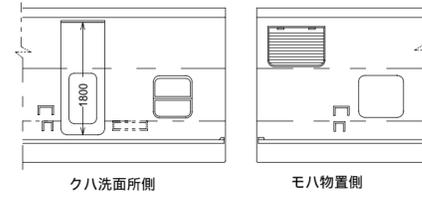
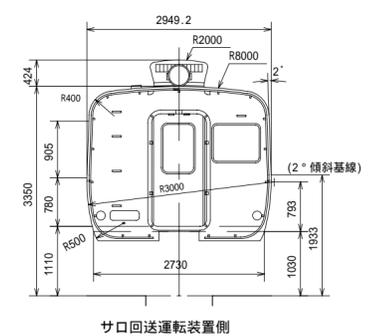
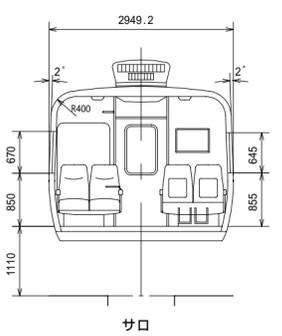
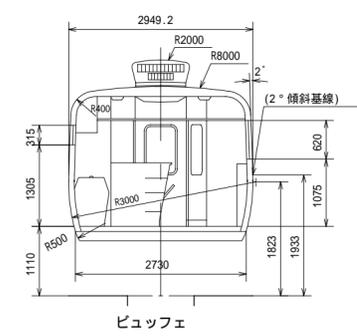
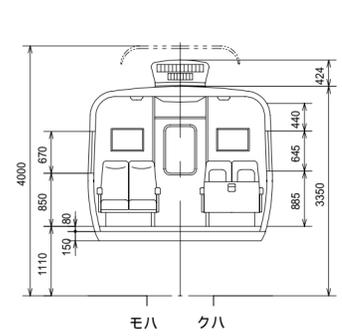
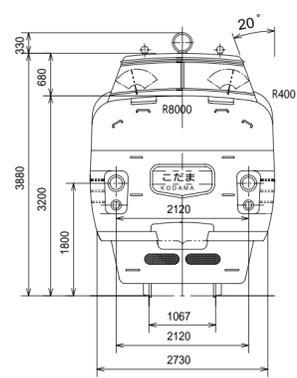
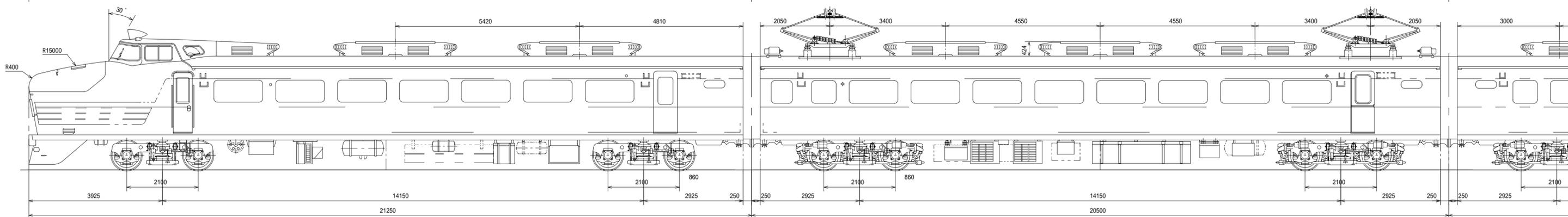
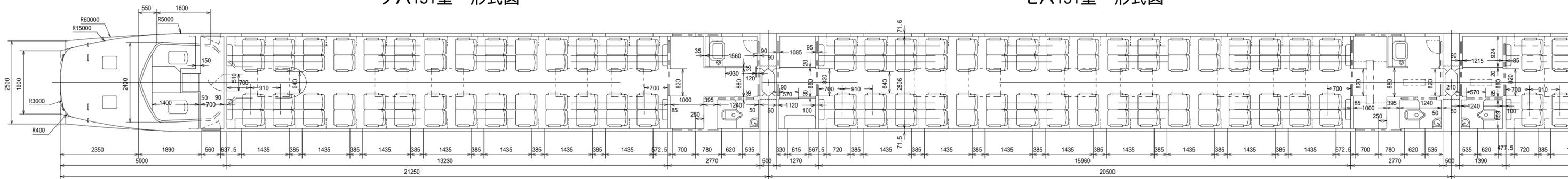
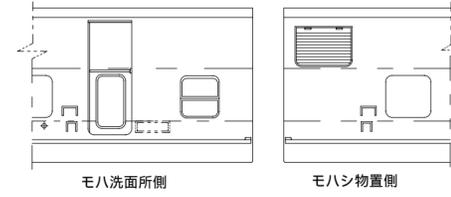


国鉄 151系電車 4両全体図

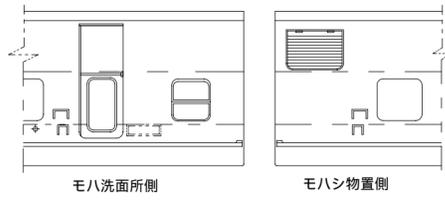
クハ151型 形式図



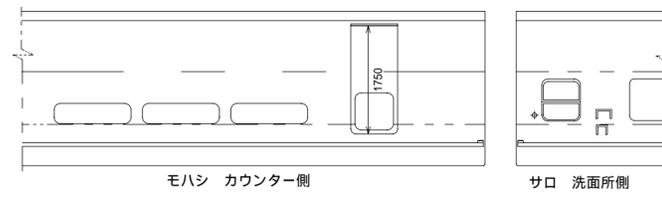
モハ151型 形式図



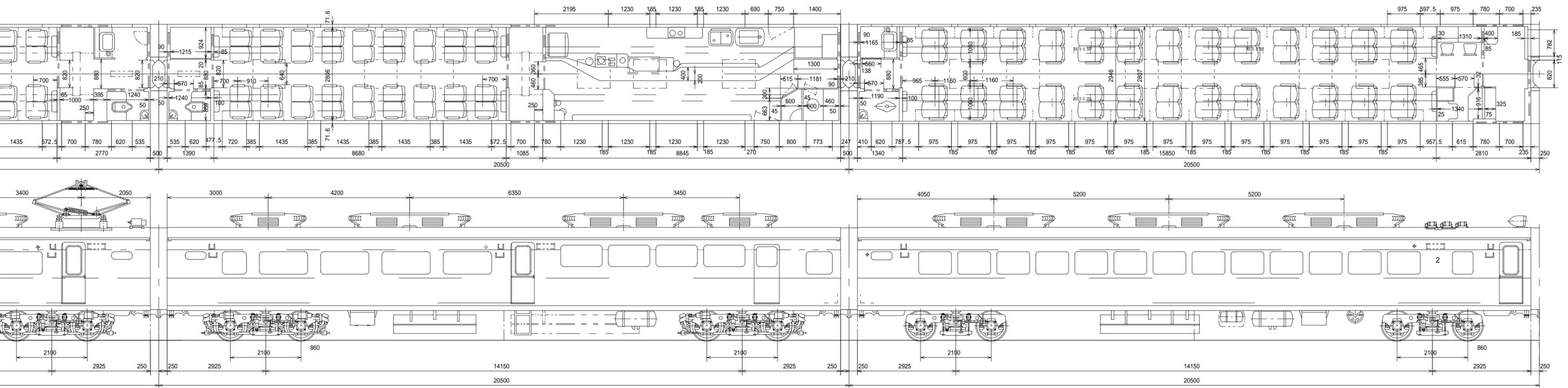
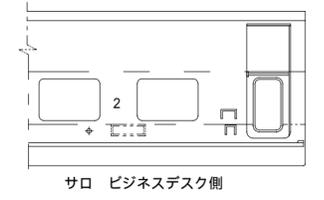
1958年、はなはなしくデビューした特急用電車
 東海道線を初めて走破した電車による特急こたま号に使用され、当初はクハ26、モハ20、モハシ21、サロ25と、20系の形式であったが、のち151系と改称
 こたまという愛称は、その後は新幹線の特急用に移されたが、この一連の車輛は今もこたま型として呼ばれることが多い
 特徴はきわめて多いが、まず先頭部のスタイル、クリームと赤の塗装、屋根上に並んだ冷房用のユニットクーラー、ビュッフェスタイルとはいえ、とにかく国電最初の食堂車モハシの採用、シートラジオや車内電話、ビュッフェに備えたスピードメータなどが強い印象を与えた
 基本的な走り装置は101系のそれを特急向けにしたものといってよく、台車はDT23とTR58である
 ここに示したのはデビュー当時の4形式、この4形式が各2輦で8輦編成となり、まず3輦成が就役
 その後増備、新形式の追加を重ねられ、最盛期には151輦に達した



モハシ150型 形式図



サロ151型 形式図



クハ26、モハ20、モハシ21、サロ25と、20系の

の車輛は今もこだま型として呼ばれることが多い

屋根上に並んだ冷房用のユニットクーラー、
シートラジオや車内電話、ピュッフェに

冷車はDT23とTR58である